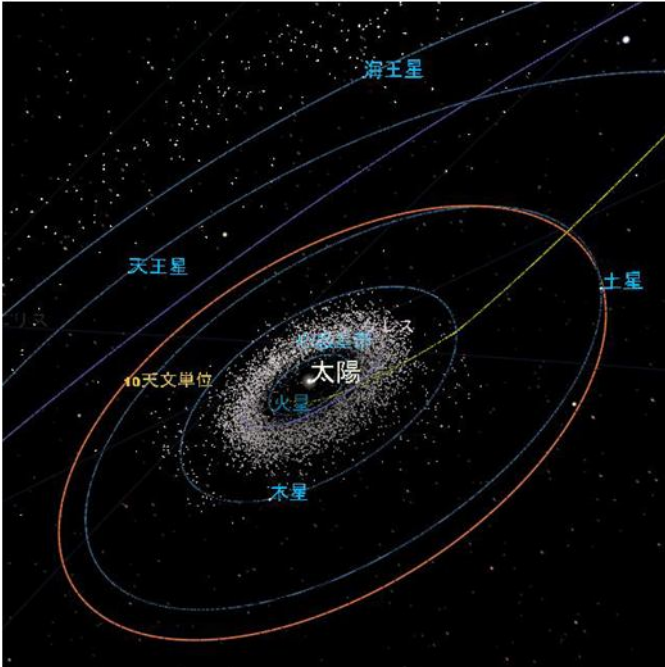


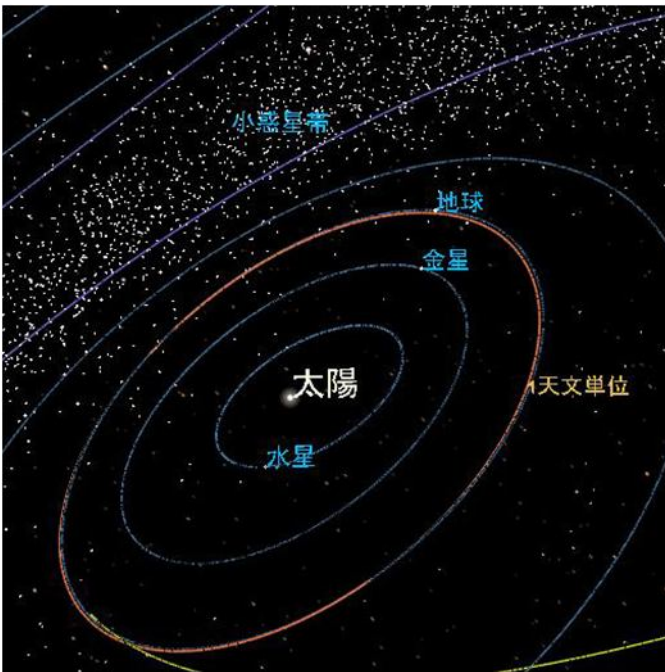
「天文ソフト “Mitaka” (4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

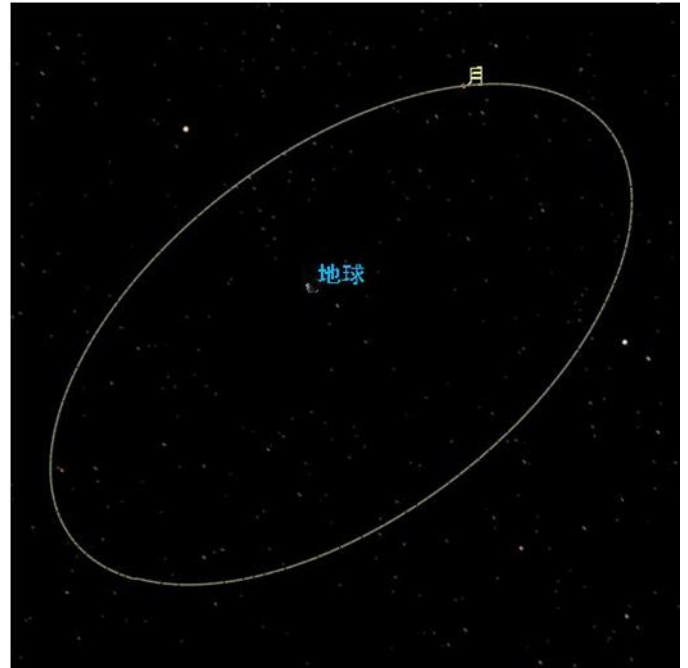
“Mitaka” の宇宙旅行も終盤に入ってきた。ここからは太陽系の中を、地球に向かって進んで行こう。



⑩太陽から 10 天文単位。土星と木星の軌道が見えてきた。その中の白い雲のようなものは、木星軌道と火星軌道の間にある、小惑星帯である。この距離では、まだ地球の軌道は小さすぎて見えない。



⑪太陽から 1 天文単位。ようやく地球の軌道が見えてきた。軌道が円で描かれているから、惑星の位置がわかるが、なかったら全くわからないだろう。



⑫地球から約 40 万 km。月の軌道の全貌が見える。地球の直径は約 13000km、月はその 4 分の 1、地球-月の距離は約 38 万 km。地球の直径の 30 倍もある。このように、視点を宇宙空間に移すと、地球と月の「大きさと距離の関係」を実感できる。



⑬地球に到着。このような地球の姿は、月か宇宙空間からのみ見られる光景だ。銀河をバックに深宇宙に浮かぶ、ちっぽけな美しい惑星でのみ、生命の営みが見られる。「日々の理科」もこの惑星で生まれている。